

農村生活の半世紀を見つめて、 いま次の世代にぜひ伝えておきたいこと

戦後日本の農山漁村のくらしは大きく変わりました。私たちは何を獲得し、何を失ったのか。また、変わらずに続いているものは何なのでしょう。

長野県において生活改善普及事業の仕事に専心された4名の方をお迎えして、生活改良普及員の仕事と農村生活の変化の半世紀を振り返っていただくとともに、次世代に残さなければならない価値あるものは何か、それを伝える手立てはあるのかを、皆さんとともに考えたいと思います。

日時： 2009年1月24日(土) 13:30～16:30

場所： ホテルサンルート長野 4階「金扉の間」

(JR長野駅善光寺口前)

長野市南千歳1-28-3

TEL 026-228-2222

(車でご来場の場合、ホテルに駐車場はありませんが、
近くの長電長野パーキングが1時間300円です。)

費用： 参加費 無料

主催： NPO 法人 農と人とくらし研究センター

共催： 国際開発学会 生活改善部会

後援： 長野県農村文化協会

<プログラム>

(敬称略)

(13:00 受付開始)

13:30 開会挨拶

基調報告

(片倉和人 農と人とくらし研究センター代表)

「戦後<生活改善>の思想の源流を探る - 山本松代
とプラグマティズム」

13:50 座談会(途中休憩10分)

「農村生活の半世紀を見つめ、いま次の世代にぜひ伝
えておきたいこと」

(元長野県生活改良普及員 土屋喜恵子・丸山勝江・
池田玲子・馬場よし子)

16:20 閉会挨拶

なお、この座談会は、2007年度トヨタ財団研究助成対象「生活が良くなるとは、どういうことだったのか? - 日本の戦後の村の経験から」の研究成果の中間報告会として開催いたします。

連絡先

NPO 法人 農と人とくらし研究センター

〒394-0047 長野県岡谷市川岸中1-6-56

電話&ファックス 0266-78-4774

E-メール nouhito@rircl.jp ホームページ <http://www.rircl.jp/>